

2023年8月3日

「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者 100 年キリスト者追悼集会」のご案内

主のみ名を賛美いたします。

2023年9月に関東大震災虐殺より100年をとることを覚えて、私たちは「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」実行委員会を組織し、4回の学習会を重ねながら追悼集会の準備を重ねてきました。

10万人を超える死亡・行方不明者を生んだ関東大震災後の混乱の中で、6000人以上の朝鮮人と700人以上の中国人が虐殺(ジェノサイド)されるという大惨事が起こりました。この大虐殺は流言蜚語(りゅうげん ひご)を信じた民間人自警団によって行われたと伝えられてきましたが、学習会を重ねる中で、警察や軍隊が虐殺の主体となったことを確認しました。本来であれば、虐殺行為を止めるべき者たちが虐殺を主導したことが証言や映像などの資料によって明らかにされました。

100年前のあの時は、関東大震災が起きる以前から、朝鮮人への侮蔑的な風潮が広められていました。しかもそれを広めたのは軍隊や警察などのいわゆる行政でした。これが根底にあったことによって、関東大震災発生後の混乱が朝鮮人・中国人のせいとされたのでした。大震災による不安や恐怖、怒りなどの矛先が、朝鮮人・中国人に向かったのだと思います。岸田政権や小池東京都知事が朝鮮人・中国人虐殺の事実に向ける背後には、この警察や軍隊の行為を明らかにしたくないという隠ぺいの体質が存在することを知りました。

もう一つの大きな課題は、「あの時に教会は何をしていたのか?」です。

朝鮮人への侮蔑の風潮の中で、教会はどの立場にたっていたのか?

虐殺が繰り返される中で、教会はどのような声をあげたのか?

何より、殺戮の手から逃れようと必死な朝鮮人・中国人の方々に教会は扉を開いたのか?

寺院では虐殺から逃げた人をかくまったことが報告されていますが、残念ながら、現時点では教会からの事例の報告は聞こえてきません。

そして、その背後に、日本の教会の、そして日本のキリスト者の信仰が問われる事態が存在するのではないかと思います。それは、朝鮮人への侮蔑的な風潮についての無自覚の罪であり、軍隊や警察などの行政への無批判の罪です。この無自覚さと無批判さが、やがて戦争協力へとつながっていったことは否定できないことではないでしょうか。

関東大震災から100年がたつ今、私たちキリスト者は問われているのだと思います。あなたはどこに立つのか?と。この問いの前に立ち、私たちは自らを省みつつ、「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」を開催したいと願います。

追悼集会は、9月3日(日)午後4時から5時30分に、在日大韓基督教会東京教会において行い、インターネットからも参加できるよう準備しています。韓国からもお客様が参加されることとなっています。

どうか一人でも多くこの追悼集会に参加して下さり、祈りを共にして下さいますよう、ここにご案内いたします。

「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者 100 年キリスト者追悼集会」実行委員会

共同代表 吉高 叶 (日本キリスト教協議会議長)

金 柄鎬 (在日大韓基督教会総幹事)

光延 一郎 (日本カトリック正義と平和協議会)

実行委員一同